

インフルエンザワクチン予防接種の受け方

監修：国立感染症研究所感染症情報センター長 岡部 信彦

注意 1 予防接種を受ける前に

インフルエンザワクチンはその製造工程でふ化鶏卵を使っているため、わずかながら卵由来の成分が残っています。

近年は高純度に精製されているのでほとんど問題となりませんが、卵を食べるとじんましんや全身性の発しんが出たり口の中がしびれるような強い卵アレルギーがある場合は、接種を避けるか注意して接種する必要があります。

注意 2 予防接種を受けたら



接種日は過激な運動を避けて、注射部位は清潔にしておいてください。

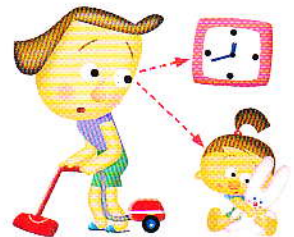


接種日の晩は入浴しても差し支えありません。

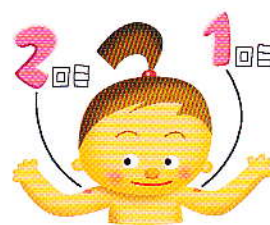
高熱やけいれんなどの異常反応や、体調の変化があれば、速やかに医師の診察を受けてください。



30分以内に急な副反応が起こることがまれにありますのでその間は様子を観察し、医師とすぐに連絡が取れるようにしておきましょう。



2回接種される方、または13歳未満の方は1~4週間の間隔をおいて接種しますが、効果面から4週程度の間隔が望まれます。



次回の注射のときは、反対の腕に、あるいは同じ腕でも前回の注射部位とは違う部位に接種を受けてください。

インフルエンザワクチンでの副反応

副反応は一般的に軽微です。注射部位が赤くなる、腫れる、硬くなる、熱をもつ、痛くなる、しびれることがあります。通常は2~3日で消失します。発熱、悪寒、頭痛、倦怠感、一過性の意識消失、めまい、リンパ節腫脹、嘔吐・嘔気、下痢、関節痛、筋肉痛なども起こることがありますが、通常は2~3日で消失します。過敏症として、発しん、じんましん、湿しん、紅斑、多形紅斑、かゆみなどもまれに起こります。強い卵アレルギーのある方は強い副反応を生じる可能性がありますので必ず医師に申し出てください。非常にまれですが、次のような副反応が起こることがあります。(1)ショック、アナフィラキシー様症状(じんましん、呼吸困難など)、(2)急性散在性脳脊髄炎(接種後数日から2週間以内の発熱、頭痛、けいれん、運動障害、意識障害など)、(3)ギラン・バレー症候群(両手足のしびれ、歩行障害など)、(4)けいれん(熱性けいれんを含む)、(5)肝機能障害、黄疸、(6)喘息発作。このような症状が認められたり、疑われた場合は、すぐに医師に申し出てください。